

平成29年度

県内大学生が創る 奈良の未来事業ジャーナル

JOURNAL of Projects from University Students

contents

- P2. 奈良の未来を考える県内大学生が政策提案をプレゼン!!
- P3~4. 平成30年度に事業を実施します!!
- P5~8. 平成29年度に事業を実施しました!!



 奈良県

平成30年3月発行

「県内大学生が創る奈良の未来事業」とは？

奈良県では、平成24年度から「県内大学生が創る奈良の未来事業」を実施しています。この事業は、多様化・複雑化する県政の様々な課題を解決するため、県内の大学等に在籍する学生の皆さんから政策提案を募集し、応募いただいた政策提案のうち、公開コンペ方式により選ばれた提案を事業化し、大学生の皆さんにも参加いただいで事業を実施するものです。

7グループが事前審査を突破！

平成29年4月上旬から6月上旬にかけて、県内の大学等に在籍する学生から、県政の抱える様々な課題を解決するための政策提案を募集したところ、16提案の応募がありました。提案のあった政策分野は多岐にわたり、大学生ならではのアイデアや専門的な知識が活かされた政策提案ばかりでしたが、書類審査による事前審査の結果、本審査に6大学・7グループの参加が決定しました。

個別相談会で、提案内容をブラッシュアップ！

7月下旬に、事前審査により選考された7グループを対象に、県の関係部局との個別相談会を実施しました。個別相談会は、本審査に向けて、提案内容をより良いものへとブラッシュアップしていただくために実施するもので、今年度初めて開催しました。

個別相談会では、大学生グループと県の関係部局の職員が、提案のあった政策分野の現状や課題、県の取組等について、熱心に意見交換を行いました。積極的に質問や意見を投げかける大学生グループからは、提案内容をより良いものにしようとする熱い思いが伝わってきました。

公開コンペの結果、最優秀賞、優秀賞に選ばれたのは...

8月29日(火)に、奈良県議会棟本会議場で、公開コンペ方式による本審査を開催しました。



公開コンペでの発表(平成29年度 優秀賞
「小学生を対象としたパラリンピック教育プロジェクト」)



公開コンペでの質疑応答(平成29年度 優秀賞
「留学生による奈良の旧正月フェスティバル」)

約60名の傍聴者が見つめる中、発表前は少し緊張していた大学生の皆さんも、発表が始まると、落ち着いた様子で発表を行いました。どのグループの提案も、個別相談会での意見交換を踏まえ、より具体的に、説得力のあるものへとブラッシュアップされており、また、審査委員からの質問にも、堂々とした受け答えを行っていました。

全てのグループからの発表終了後、新規性、発展性・継続性、実現可能性の観点から、審査委員による慎重な審査を行った結果、最優秀賞1グループ、優秀賞2グループが決定しました。最優秀賞には、森林保全や林業振興についての県民の理解向上につなげるため、森林組合等の協力を得て、中学生・高校生を対象とした森林学習プログラムを開発、実施する提案を行った、近畿大学のグループが選ばれました。

審査委員長を務めた荒井知事からは、「今年度は、地域や民間と協働して実施する提案が多かったように思う。また、

学生の皆さんにとって、事業化に向けての検討や翌年度の事業への参加を通して、社会に出る前のインターンシップの機会になればよいかと思う。」との講評がありました。



荒井知事から副賞の授与(平成29年度 最優秀賞
「学んで守ろう僕らの森-中高大連携森林学習プロジェクト」)



審査委員と記念撮影(平成29年度 最優秀賞
「学んで守ろう僕らの森-中高大連携森林学習プロジェクト」)



最優秀賞

学んで守ろう僕らの森
— 中高大連携森林学習
プロジェクト



チェーンソーの操作体験をする大学生
(奈良県林業機械化推進センター)

事業の内容

県の森林・林業の重要性について、県民の意識の醸成につなげるため、中高大連携の森林学習プロジェクトを実施します。この事業では、従来、小学生を中心に行われていた森林・林業学習を、まず大学生自らが学習し、中学生・高校生向けの学習・体験を企画・運営することにより、小学生から大学生まで連続した森林・林業学習を行うことを目指します。

また、その成果をパンフレットにまとめ、中学生・高校生を中心に広く配布したり、事業の継続実施に向けた大学生の組織づくりも行う予定です。

大学生にインタビュー!



近畿大学農学部
環境管理学科3年
奥芝 理那

政策提案をしたきっかけは?

小さい頃から、森林が好きで、大学では、森林を含む環境管理を学び、森林の大切さや課題を身近に感じるようになりました。奈良県には、豊かな森林があるにも関わらず、管理不足による森林の荒廃が進行し、森林の持つ多面的機能の劣化が懸念されます。健康な森林を後世に残すため、私たち大学生にできることはないかと考え、この事業を提案しました。

事業化への検討を行った感想は?

事業化を検討する上で、様々なお話をうかがう機会がありました。この事業に参加しなければ、このような経験はできなかったと思います。現在、県の担当者等、多くの人の支援のもと、事業実施に向けて準備を進めています。

平成30年度事業への参加に向けた抱負をどうぞ!

奈良県の豊かな森林について学ぶことから始め、守っていくことが大切です。中学生・高校生への森林学習を通して、県民の皆さんの森林を守る意識の向上に貢献したいと考えています。



優秀賞

小学生を対象とした
パラリンピック
教育プロジェクト



義肢工場で見学の大学生(大東市)

事業の内容

県内の小学生にパラリンピックに関する知識や魅力を伝えることにより、子どもたちの障害者への理解を深め、共生社会の実現につなげるため、パラリンピック教育を実施します。

この事業では、大学生ボランティアが、県内の小学校2校で、小学校4年生を対象に、パラリンピックスポーツの体験、見学、講話、講義・演習を行う教育プログラムを実施します。また、活動内容をリーフレットにまとめ、県内小学校に配布し、パラリンピック教育の周知、普及を図る予定です。

大学生にインタビュー!



奈良教育大学教育学部
教科教育専攻保健体育専修
初等教育履修分野3年次
畑村 孝輝

政策提案をしたきっかけは?

2020年東京オリンピック・パラリンピックが間近に迫る中、所属しているゼミナールで、私たち奈良教育大学の大学生が、パラリンピックを通して子どもたちに何か伝えることができなにか検討していた時に、「県内大学生が創る奈良の未来事業」の存在を知り、この事業を提案しました。

事業化への検討を行った感想は?

政策提案の事業化が決定した時は、不安の方が大きかったのですが、県の担当者から意見をいただき、子どもたちに教える時のアプローチの多様性等、新たな視点を学ぶことができました。

平成30年度事業への参加に向けた抱負をどうぞ!

このプロジェクトの実施を通して、教育現場で子どもたちと実際に関わることでできるのは、とても良い機会です。モデル校の教員や、障害者スポーツ経験者と連携・協働し、子どもたちの障害者への理解とパラリンピックへの関心を高められるような授業を展開していきたいと思えます。

平成30年度に事業を実施します!!

平成29年度に最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案について、政策提案した県内大学生と県の担当者によるプロジェクトチームを設置し、平成30年度の事業化に向けた検討を行いました。



留学生による奈良の
旧正月フェスティバル



お正月遊びを学ぶ大学生(奈良県立民俗博物館)

事業の内容

観光オフシーズンの冬期において、外国人観光客の誘致を図るため、旧正月期間に日本を訪れる中国・台湾・韓国等からの観光客を対象に、日本のお正月文化を体験できるイベントを実施します。具体的には、奈良女子大学の留学生有志を中心に、県内の大学の学生、留学生、地元団体と協力し、日本の昔の正月遊びの体験や、伝統文化の鑑賞ができるイベントを開催する予定です。このイベントを通じて、留学生が日本文化を学ぶ機会を創出します。

平成30年度に事業を実施します!!

大学生にインタビュー!



奈良女子大学大学院
人間文化研究科博士後期課程
社会生活環境学専攻1年
林 君嶸

政策提案をしたきっかけは?

まちづくりに関する研究室に所属する私たちに、奈良県の観光分野の課題に対して、留学生の視点を生かしてできることはないかと考え、観光オフシーズンでもある旧正月の時期に、外国人観光客の誘致を図るこの事業を提案しました。日本や奈良の文化、まちづくりを実践的に学ぶことができる貴重な機会だと思います。

事業化への検討を行った感想は?

事業化に向けて、県の担当者や検討を進める中で、多くの意見や助言をいただき、提案当時には気づかなかった新たな視点に気づくことができました。事業の達成により近づくため、日本のお正月関連のイベントへの参加や施設の見学等、来年度の事業実施に向けて、様々な準備を進めています。

平成30年度事業への参加に向けた抱負をどうぞ!

事業実施に向けて不安もありますが、各機関、県内の他大学の留学生とも連携しながら、事業の実現のために頑張りたいと思います。

COLUMN これまでの受賞政策提案一覧

平成24年度から始まった「県内大学生が創る奈良の未来事業」において、これまで最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案は以下のとおりです。(平成24年度:27提案、平成25年度:13提案、平成26年度:20提案、平成27年度:18提案、平成28年度:23提案、平成29年度:16提案)



提案年度	賞	政策提案名	提案者	提案年度	賞	政策提案名	提案者
平成29年度	最優秀賞	学んで守ろう僕らの森 —中大連携森林学習プロジェクト	近畿大学農学部環境管理学科3年 奥芝 理那 他2名	平成26年度	最優秀賞	楽しく健康!健康 (けんぎょう) 農業で遊休地を有効活用	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程住環境学専攻1年 土佐野 美裕 他5名
	優秀賞	小学生を対象とした パラリンピック教育プロジェクト	奈良教育大学教育学部教科教育専攻保健 体育専修中等教育履修分野3年次 小田 陽介 他2名		優秀賞	無病促菜 ~野菜パワーで元気100%な奈良県へ!~	帝塚山大学現代生活学部食物業栄養学 科3回生 高瀬 美桜 他9名
平成28年度	最優秀賞	留学生による 奈良の旧正月フェスティバル	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士 後期課程社会生活環境学専攻1年 林 君嶸 他9名	平成25年度	優秀賞	奈良栄養クリニック設立計画	奈良女子大学生生活環境学部・食物業 栄養学科4年 祝迫 景子 他4名
	優秀賞	農地の窓口	近畿大学農学部農業生産科学科3年 中井 隆教 他2名		最優秀賞	萃点を灯す —春日奥山から未来への文化継承の地	奈良女子大学大学院人間文化研究科 住環境学専攻2年生 大石 茉由佳 他2名
平成27年度	最優秀賞	Sight Feeling NARA 感じてみつけ! あなたの奈良 魅力再発見プロジェクト	奈良女子大学大学院人間文化研究科 住環境学専攻1年 金村 麗華 他5名	平成24年度	優秀賞	科学の旅 -シーズンフリーの ワンストップサイエンスツーリズム-	奈良教育大学教育学部・学校教員養成 課程・理数生活科学コース4回生 荻 奈津希 他5名
	優秀賞	女子大塾 ~女子大生による県南部学習支援~	奈良女子大学生生活環境学部住環境学 科4回生 小澤 初葵 他5名		最優秀賞	自然の恵みリスタート事業	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程1年住環境学専攻 濱川 真衣 他4名
平成24年度	最優秀賞	緊急課題!奈良の将来の医療を つくる多職種医療学生の集い	奈良県立医科大学医学部医学科6年 峯 昌啓 他8名	優秀賞	大学生がつくる幼児のための スポーツイベント	奈良教育大学教育学部・保健体育専 修3回生 赤木 誠五 他2名	
	優秀賞	女子大生ハンティングサークル (狩りガール)	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程住環境学専攻1年 竹村 優希 他6名	最優秀賞	泊まってみ奈良? —町屋ステイで奈良を知る—	奈良県立大学地域創造学部1年 横田 拓大 他8名	
平成24年度	優秀賞	不登校の子どもたちに大学生ができること ~大学間の垣根を越えて~	帝塚山大学大学院心理科学研究科心 理科学専攻2年 酒井 希恵 他9名	優秀賞	奈良県産材製の児童用 学習机・椅子・教卓の普及	奈良女子大学生生活環境学部住環境学 科4回生 笹川 祐里 他3名	
	優秀賞	かえろうら!十津川 ~空き家のDIY改修&活用プロジェクト~	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程住環境学専攻1年 森 里沙 他9名	優秀賞	Meet 20s' 絆 プロジェクト —20歳の若者の出会いで絆をつくる	帝塚山大学経営情報学部経営情報学 科3年 森崎 直人 他7名	



最優秀賞

「農の入口」

モデル事業

政策提案名(農地の窓口)



ポリエステル媒地を用いた草花の定植に取り組む大学生(近畿大学)

事業の実施状況

奈良県の農業にとって解決すべき課題である農業の担い手の確保を図るため、平成28年度に近畿大学の学生から提案のあった政策提案をもとに、県と近畿大学が連携して新たな切り口での担い手確保対策に取り組んでいます。



ICT農法を利用したトマト栽培(近畿大学)

具体的には、近畿大学校内及び近隣に「なら近大農園」を設置し、「ユニバーサル農法」と「ICT(Information and Communication Technology)農法」からなる「なら近大農法」の実用化を図ります。
「ユニバーサル農法」は、土壌の代わりに古着等の繊維でできた軽量のポリエステル媒地を用いる農法で、従来の土壌を用いる農法と比べて作業負担を軽減でき、誰でも無理なく農業ができるようになります。「ICT農法」は、生育データの分析、肥料等の調節を自動化できるため、個人の経験に頼ることの多かった農業から脱却を図ることができます。

平成29年度に事業を実施しました!!

平成28年度に最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案について、大学生の皆さんにも参加していただき、平成29年度に事業として実施しました。



「農の入口」モデル事業に係る県と近畿大学の覚書締結

今年度は、「なら近大農園」を設置し、これらの農法について、大学生が知識や技能の習得を図りました。また、この事業について、近畿大学と県がより一層の連携を図るため、平成29年9月27日に、県と近畿大学が覚書を締結しました。
今後も、近畿大学の持ち味を生かしながら、近畿大学の学生の協力も得て、「なら近大農園」の運営を行い、「なら近大農法」の実用化を図ること、若者だけでなく、女性や高齢者、障害者を対象に、多様な担い手の円滑な就農を支援していく予定です。

大学生にインタビュー!



近畿大学農学部
農業生産科学科4年
吉本 雄大

事業に参加した感想は?

私たちは、この事業において、休耕田を利用した「なら近大農法」を実施することにより、複合経営等の6次産業化や、農業のさらなる進展による地域活性化を目指しています。また、農業分野では、若者の担い手不足が深刻化しており、新たな担い手が農業に参入しやすくなるよう事業を進めています。私は今年度から事業に参加していますが、事業の実施に学生として関わる中で、農法の知識の習得や事業内容の考案等、多くの経験をさせていただいています。

今回の経験を今後の活動にどのようにつなげていきたいですか?

この事業における私の役割は、「次の担い手に繋ぐために学ぶこと」だと考えています。また、事業の実施を通して学ぶことは全てが貴重であり、将来自分すべきこと、やりたいことを明確にさせるための基盤づくりを行っていきたくと考えています。

平成29年度実施



奈良の魅力再発見事業

政策提案名(Sight
Feeling NARA
感じてみつけ! あなたの奈良
魅力再発見プロジェクト)



マップに掲載する観光素材について、障害者と調査を行う大学生(春日大社)

事業の実施状況

障害のある人にも、ない人にも、これまでの「見て回る観光(Sightseeing)」では気がつかない観点から観光を楽しむんでもらうことを目的として、視覚、触覚、聴覚等で体感することができると観光素材を紹介する観光マップ(東大寺編)を作成しました。

ならまち編)を作成しました。

マップの作成にあたっては、平成29年4月下旬から、県担当者と奈良女子大学の大学生で、何度も打ち合わせを重ね、8月上旬には、京都市内を視察しました。京都市では、「京都ユニバーサル観光ナビ」というホームページを開設しており、京都市内の観光モデルコースとモデルコースを歩く中でのバリアフリー情報が発信されています。この「京都ユニバーサル観光ナビ」で発信されているバリアフリー情報をもとに、実際に京都市内の観光モデルコースを歩き、マップ作成に役立ちそうなことや気づいたことを整理しました。



「京都ユニバーサル観光ナビ」で発信されているバリアフリー情報をもとに、観光モデルコースを歩く大学生(京都市内)

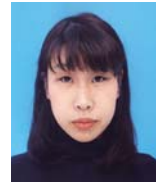


マップに掲載する観光情報について、障害者からアドバイスを受ける大学生(春日大社)

また、12月から1月にかけては、障害者や関係団体等と連携して、奈良市内の観光地を歩き、マップに掲載する観光素材についての調査を行いました。そして、1月以降、京都市内の視察や、奈良市内での調査を踏まえ、マップのデザインや掲載情報の選定等について検討を行い、マップの作成に取り組みました。

今後、作成した観光マップをできるだけ多くの人に利用していただけるよう、県内の観光案内所や障害者団体、駅等で配布する予定です。

事業に参加した感想は?



奈良女子大学大学院
人間文化研究科
住環境学専攻2年
金村 麗華

私たちは、奈良市内の観光地を、障害のある人にも、ない人にも、多くのの人に楽しんでもらうため、視覚、触覚、聴覚等で体感することができると観光素材を紹介するマップの作成に取り組みました。マップの作成にあたり、様々な年齢や性別の人と意見交換を行うことで、今まで知らなかった奈良の魅力や歴史、観光のポイント等を知ることができました。また、マップに掲載する情報の選択やマップのデザイン等について、何度も検討を重ねました。様々な立場に立って物事を考える機会が多くあり、とても勉強になりました。

今回の経験も今後の活動にどのようにつなげていきたいですか?

私たちは、この事業で、奈良の魅力や「五感」という視点から発信し、障害のある人にも、ない人にも、奈良を楽しんでもらえるためのマップ作成を行いました。今回は限定した場所についての情報発信ですが、奈良だからこそできる観光体験を継続的に広く発信し、多くの人に奈良の魅力を伝えていくことができたいと思います。

大学生にインタビュー!



優秀賞

県内大学生による 学習等支援事業

政策提案名(女子大塾〜女子
大生による県南部学習支援)

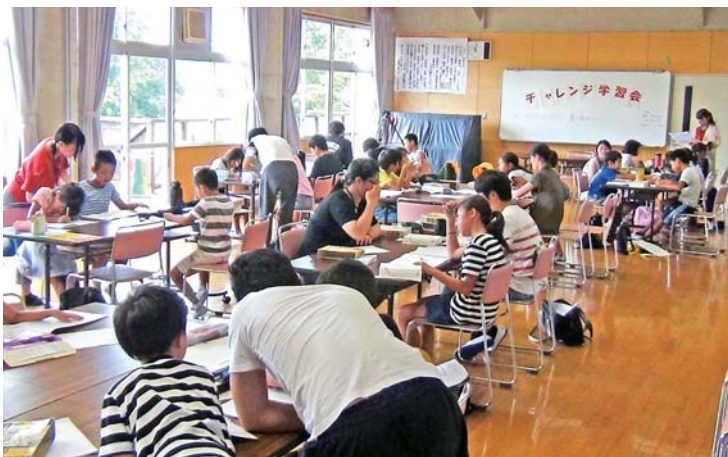


算数の授業で学習補助をする大学生(山添村立やまぞえ小学校)

事業の実施状況

県南部・東部地域の小・中学生が、様々な教育の機会を得ることができるよう、大学生ボランティアが学習支援を行いました。今年度は、山添村、吉野町、大淀町、下市町の4町村の小学校や中学校で学習支援を実施しました。

平成29年度に事業を実施しました!!



それぞれの生徒に合わせたワークをもとに、学習支援を行う大学生(吉野町立吉野北小学校)

まず、4月中旬から、大学生ボランティアの募集を行い、教員を目指す大学生や教職に興味のある大学生等から応募がありました。7月上旬には、事前研修会を実施し、各町村への派遣を目前に控えた大学生が、子どもたちの安全を考えた授業の進め方等について学びました。

そして、8月下旬から、各町村の小学校や中学校において学習支援活動が始まり、小学校では、各教科の課題のサポートやレクリエーション等を行い、中学校では、部活動の支援やキャリア教育、英語教育の補助等を行いました。

11月、2月には、大学生ボランティアが



夏休みの宿題等の補助を行う大学生(大淀町立大淀緑ヶ丘小学校)

主体となり、今後の学習支援活動への参加を検討している大学生や関係町村の教育委員会、関係大学の担当者等を対象に報告会を開催し、来年度の活動に向けて、それぞれの町村での活動における成果や課題を共有しました。

2月28日現在、約80名の大学生ボランティアの登録がありますが、今後も積極的に大学生ボランティアの募集を行い、来年度は市町村を拡大して、学習支援に取り組んでいく予定です。

〈事業参加大学〉

(奈良教育大学・奈良女子大学・畿央大学・帝塚山大学・天理大学・奈良学園大学)

大学生にインタビュー!



奈良女子大学生生活環境学部
住環境学科3年生

中山 由記子

事業に参加した感想は?

私は、大学生ボランティアの学習支援活動をサポートする「県内大学生による学習等支援センター」の一員として、この事業での報告会等の企画・運営等に携わりました。報告会では、大学生ボランティアの様々な学習支援の活動報告を受け、県南部・東部地域の教育の現状を知り、その現状に応じた学習支援に取り組む大学生の姿に刺激をもらいました。また、少人数のグループに分かれて行った意見交換では司会進行を務め、学習支援を進めていく中での大変さややりがい等、大学生ボランティアのリアルな声を聞くことができました。

今回の経験を今後の活動にどのように活かしていきたいですか?

今後、「県内大学生による学習等支援センター」の一員として、学習支援についての理解をより深めるとともに、大学生ボランティアが活動を行いやすくなるように、報告や意見交換がスムーズに行われる環境をつくっていきたいと思います。そして、私自身が野迫川村で取り組んでいる学習支援活動も参考にして、魅力的な取組を積極的に取り入れていきたいと思っています。

女子大生のための キャリア形成・県内就職 促進プロジェクト 政策提案名(女子大学生のための キャリア形成プロジェクト)



「女子大学生ワーク&ライフEXPO」の開催に向けて、県職員とミーティングをする大学生

事業の実施状況

就職活動を目前に控えた女子大学生に、自身でライフデザインを具体的に描き、県内で働き続ける意識を培ってもらうことを目的に、女性の多様な働き方や県内企業の魅力について学ぶことので

きる様々なプログラムを実施しました。

まず、女子大学生に、働く女性の現状を知り、働くことの具体的なイメージをもってもらうため、平成29年10月21日に、「女子大学生ワーク&ライフEXPO」を開催しました。EXPOでは、新潮社出版部部長の中瀬ゆかりさんによる記念講演や県内企業の社員の皆さんとの交流等を実施し、278名の参加がありました。

また、女子大学生に自身のライフプランを持ち、自立した女性として自分らしく主体的な生き方を考えてもらうため、11月から2月にかけて、奈良女子大学や奈良県立大学で、キャリアデザ



キャリア形成講座でライフプランについて話し合う大学生(奈良女子大学)



キャリア形成講座でワークショップ型の講義を受講する大学生(奈良女子大学)

インの専門家やファイナンシャルプランナーによる、「キャリア形成講座」を実施しました。

さらに、女子大学生に、キャリアを継続し、働き続ける意識をもってもらうため、3月に、「県内企業魅力体験DAY」を実施しました。「県内企業魅力体験DAY」では、県内で働く女性に一日密着することで、女子大学生に女性の働き方を肌で感じていただきました。

来年度も、継続してプロジェクトを実施し、多くの女子大学生に参加いただけるよう、SNS等を活用したPRやゼミナール等での周知活動を行っていく予定です。

大学生にインタビュー!



奈良女子大学大学院
人間文化研究科博士前期課程
生活文化専攻2年
岸本 真実

事業に参加した感想は?

この事業の運営に参加させていただき、他にはない経験を積むことができました。担当した広報活動では、より多くの人に、EXPOに参加していただくため、チラシやブログを読まれた人の行動や意識に訴えかけるよう、一文一文にまで頭を捻りました。EXPOや講座を開催するにあたり、多くの皆さんにご協力いただき、私たち学生から始まった小さな提案が実現していくことを感慨深く思いました。

今回の経験を今後の活動にどのようにつなげていきたいですか?

プロジェクトの実施を通して、女子大学生が学生の時から自身のキャリアについて考え、就職活動やその他のライフイベントにおいて「自分軸」を明確にして、人生選択をしていく必要性を改めて実感しました。この事業における学びを大切に、今後、社会人生活を送りたいと思います。また、この事業がより多くの県内大学生に浸透するよう、後輩メンバーが来年度も引き続き盛り上げてくれることを期待しています。